

令和7年度

市政モニターアンケート調査結果
【 少子化対策について 】



長 崎 市
長崎創生推進室

1. 調査の目的

長崎市では、喫緊の課題である人口減少対策として、3つの重点プロジェクトの一つに「少子化対策」を掲げ、取組みを進めています。

今後、より戦略的かつ効果的な事業展開をしていくため、少子化対策アクションプランに位置付け実施している事業の認知度等を把握・検証するため、調査を行いました。

2. 調査の概要

調査期間：令和8年2月6日 ～ 令和8年2月24日

送付数：261人

回答率：74.3%（194人）

（郵送回答 112人（57.7%）、インターネット回答 82人（42.3%））

3. 調査結果

【少子化対策の取組みの認知度等について】

少子化対策の取組みの認知度について、独身・結婚期、子育て期、教育期の3つのライフステージに分けて比較すると、独身・結婚期の取組みである交際・結婚支援の取組みは半数以上（67.2%）の方に知られていますが、子育て期や教育期の取組みはあまり知られていないことがわかりました。

また、少子化対策として効果的だと思う取組みについては、「保育所に通う子どもの保育料の無償化（第二子以降）」や「小中学校の給食費・保育所の副食費の物価高騰分を長崎市が負担」という経済的支援を回答した方が多く、経済的な支援を求めていることがわかりました。

なお、「交際や結婚を希望する方を対象とした出会いイベント・結婚についてのセミナーの開催（ときめきナガサキ）」については、効果的だと思うと回答した方が4番目に多く、最も高くなっており、認知度も高く、効果の高い取組みであることがわかりました。

【少子化対策の情報発信について】

長崎市の少子化対策の取組みを、トレーディングカードを用いて発信する「ながさき未来サポーターズ」について、93.0%の人が「知らない」と回答しており、周知が十分にできていないことがわかりました。

少子化対策に対するご意見の中にも、取組みのPRを強化すべきという意見がみられ、情報発信を強化・継続して行っていく必要があることがわかりました。

4. 調査結果の見方

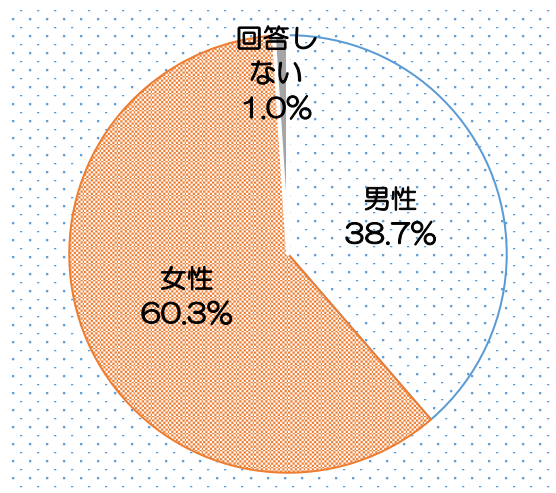
調査結果の数字は、百分率で表記しているものがあり、百分率の値は、小数点以下第 2 位を四捨五入して、小数点第 1 位まで表記しています。そのため、内訳を合計しても 100 パーセントに合致しない場合があります。

また、複数回答可とした設問においては、合計が 100 パーセントを上回る場合があります。

なお、回答者数の異なる間については、回答者の数を「N=〇〇人」で表現しています。

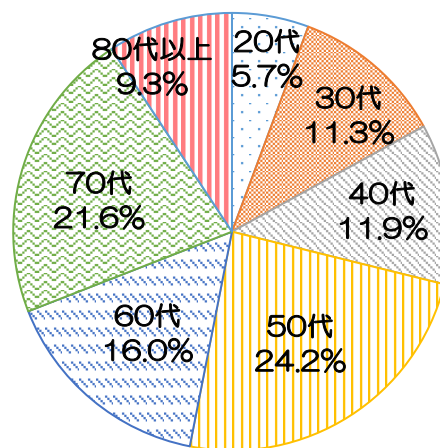
問1 あなたの性別をお答えください。

選択肢	回答者数	割合
男性	75人	38.7%
女性	117人	60.3%
回答しない	2人	1.0%
合計	194人	100.0%



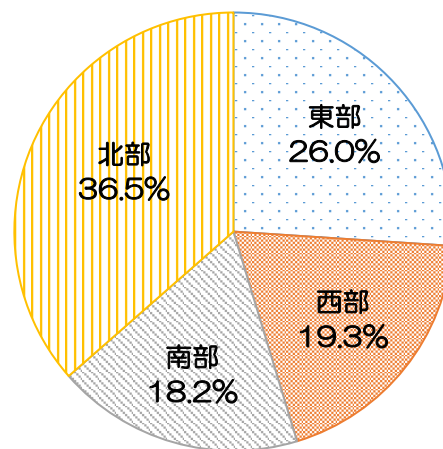
問2 あなたの年齢を選択してください。

選択肢	回答者数	割合
20代	11人	5.7%
30代	22人	11.3%
40代	23人	11.9%
50代	47人	24.2%
60代	31人	16.0%
70代	42人	21.6%
80代以上	18人	9.3%
合計	194人	100.0%



問3 お住まいの町名を教えてください。

選択肢	回答者数	割合
東部	50人	26.0%
西部	37人	19.3%
南部	35人	18.2%
北部	70人	36.5%
合計	192人	100.0%

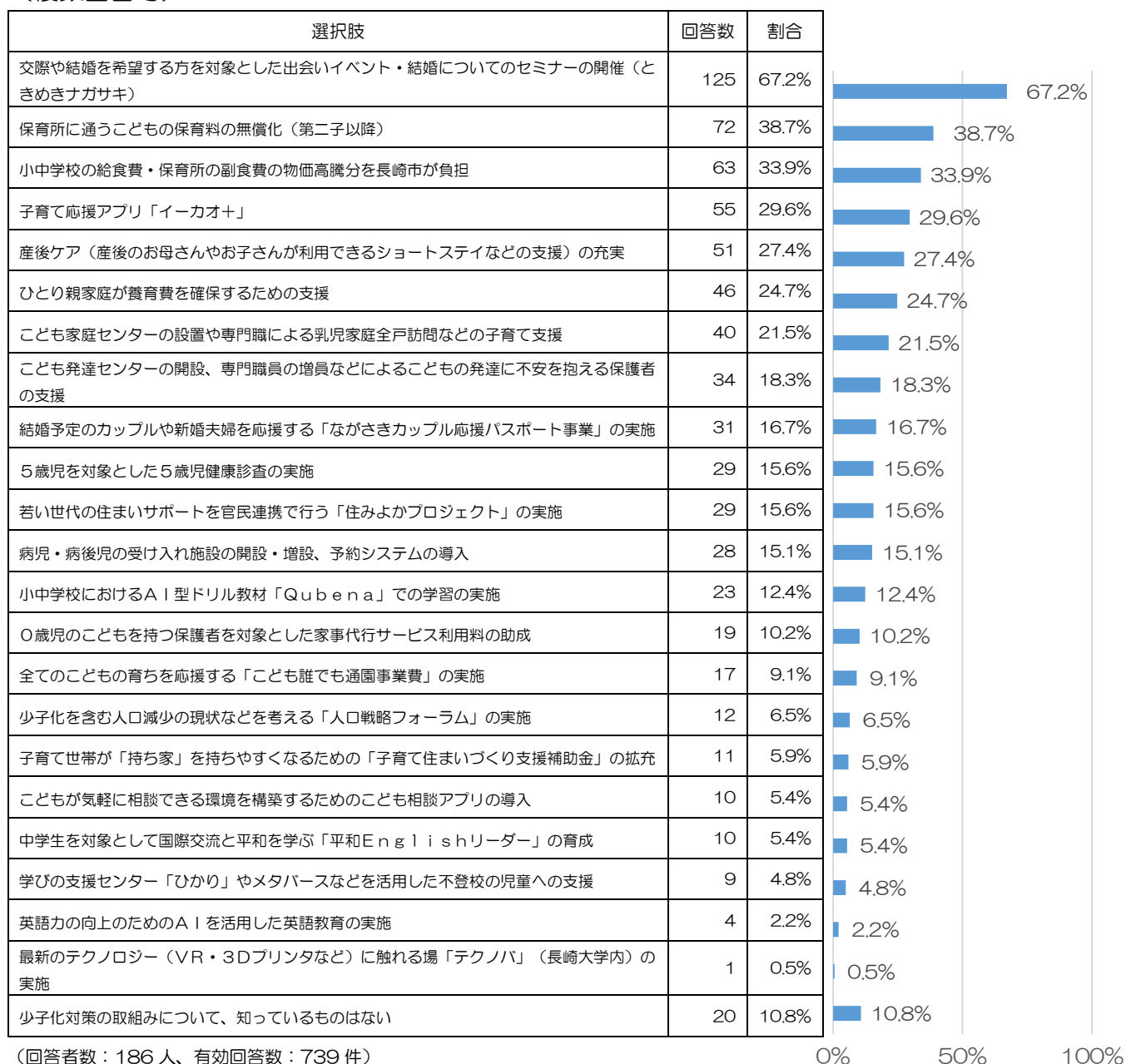


(無回答 2人)

※ご記入いただいた町名をもとに、東西南北に分けて集計しています。

問 14 長崎市の少子化対策の取組みについて、知っているものは何ですか。

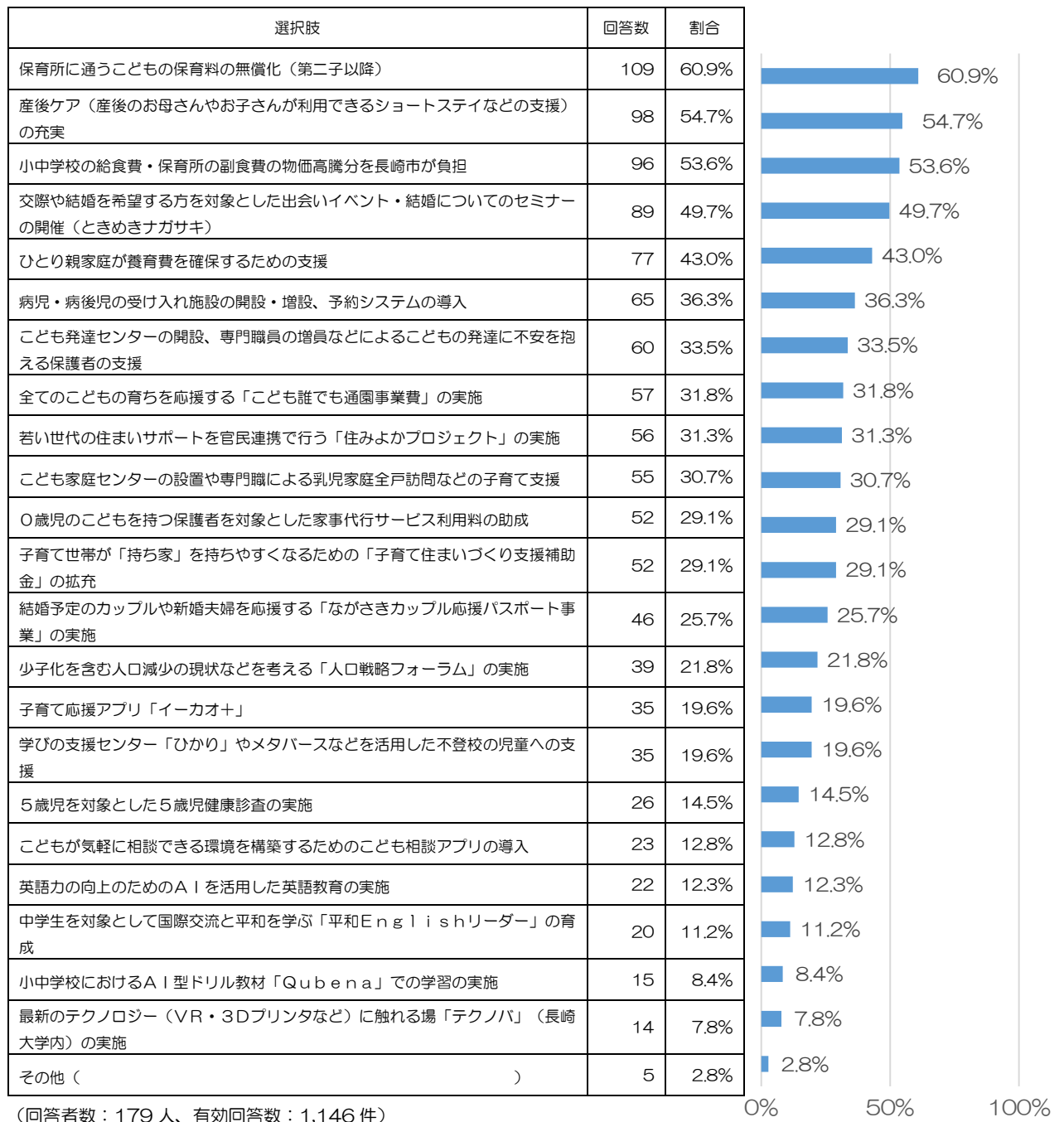
(複数回答可)



少子化対策の取組みの認知度について、「交際や結婚を希望する方を対象とした出会いイベント・結婚についてのセミナーの開催（ときめきナガサキ）」が67.2%と最も多くの方に知られており、次に「保育所に通う子どもの保育料の無償化（第二子以降）」、「小中学校の給食費・保育所の副食費の物価高騰分を長崎市が負担」の認知度が高いことがわかりました。

独身・結婚期、子育て期、教育期の3つのライフステージに分けて比較すると、「英語力の向上のためのAIを活用した英語教育の実施」や「最新のテクノロジー（VR・3Dプリンタなど）に触れる場「テクノバ」（長崎大学内）の実施」などの教育期の取組みがあまり知られていないことがわかりました。

問 15 長崎市役所の少子化対策の取組みについて、効果的だと思うものは何ですか。数回答可)



少子化対策として効果的だと思う取組みは、「保育所に通う子どもの保育料の無償化（第二子以降）」や「産後ケア（産後のお母さんやお子さんが利用できるショートステイなどの支援）の充実」が多く、次に「小中学校の給食費・保育所の副食費の物価高騰分を長崎市が負担」、「交際や結婚を希望する方を対象とした出会いイベント・結婚についてのセミナーの開催（ときめきナガサキ）」、「ひとり親家庭が養育費を確保するための支援」の順となっています。

また、効果的だと思うと回答した方が4番目に多い「交際や結婚を希望する方を対象とした出会いイベント・結婚についてのセミナーの開催（ときめきナガサキ）」の認知度について、回答割合が67.2%（問14より）となっており、認知度も高く、効果の高い取組みということがわかりました。

問 16 少子化対策として長崎市にどのようなことを期待しますか。(記述式)

〈主な回答〉

【経済的支援】

- 保育料、給食費、教育費、医療費などの無償化してほしい。
- 不妊治療や出産時の費用の助成をもっと手厚くしてほしい。
- 病気の子どもの医療費負担の軽減化。
- 出産費用の補助、一人目二人目三人目などに対する補助。
- 手当での充実。
- 子育て支援金や、妊娠、出産時の経済的支援を充実させる。
- 子どもを産み育てている人への減税などのシステムがあればいい。

【結婚支援】

- 出会いの場を拡大してほしい。
- 交際・結婚支援の情報を未婚の人達が集まる所に掲示。
- 昔は近所の人たちが〇〇さんの所に未婚の人がいるとお世話する人がいた。自治会を通して復活を希望します。
- 結婚して安心して家庭を持つことができる環境、地元を大切に思い住み繋ぐことができる場所になること。
- 結婚し、家庭をもつと人生の価値観が変わる素晴らしさもアピールしてほしい。

【子育て支援】

- 学童保育を充実してほしい。
- 共働きが多い今日、希望者全員がいつでも安心して子どもを預けられる保育所や学童保育所が必要かと思う。
- 保育所の充実や病児の受け入れ施設の増設をしてほしい。
- 夕方遅くまで運営されている保育園や幼稚園、託児所等があればいいと思う。
- 出産後や子育て中も働きやすい職場環境の整備が必要。
- 子どもの遊び場の整備をしてほしい。
- 長崎市の子どもは、長崎市で育てようというスタンスが大事だと思います。

【雇用・収入の増加などに係る支援】

- 若い世代の流出により、少子化進行が考えられる。若い人たちの働きやすい、生活しやすい、作ってあげる。職場、働く場が少ないように感じます。
- まず給料を上げないと、女性は特に仕事、育児に追われています。収入が多ければ、お金を家事、育児に使えば助かると思います。
- 収入が上がらないと、子どもを育てるのは無理だと思います。
- 長崎市内の一般企業に対して、女性がもっと休みを取りやすくなるような提言をしてほしい。
- 収入を増やさないと結婚できません。手取りを増やす政策を期待しています。
- 若い方たちが定着できるような企業を誘致して、起業したい方々のサポート。
- Uターンを希望する若者に対する就業先の充実、生活環境の整備。

【その他の意見】

- 空き家対策と夜景の灯りを継続するために、若い方（独身、既婚者含む）に住居負担を減らした住まいの選択を提供する。
- 持ち家取得するための補助制度。
- 誰にでも住みやすい町にすることが大事だと思います。
- 安心して安定して生活ができる環境を作ること。

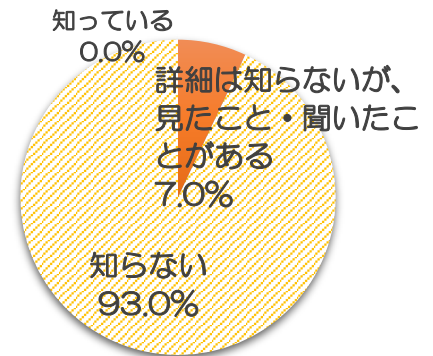
主な回答から、求められていることとしては「経済的支援」や「結婚支援」「子育て支援」及び「雇用・収入の増加などに係る支援」の4つにおおまかに分類でき、特に「経済的支援」と「雇用・収入の増加などに係る支援」が強く求められていることがわかりました。

また、「その他の意見」として、住まいに関する支援や住みやすい町となることが求められていることがわかりました。

問 17 長崎市の少子化対策の取組みを、トレーディングカードを用いて発信する「ながさき未来サポーターズ」を知っていますか。(当てはまるものを1つ回答)

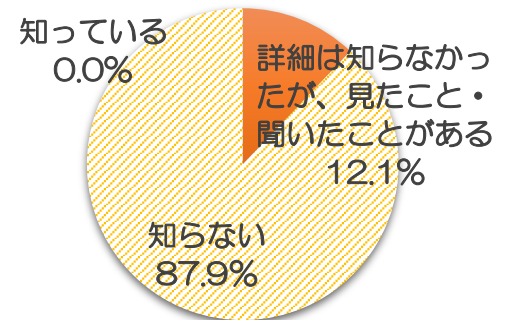
〈全体〉

選択肢	回答数	割合
知っている	0	0.0%
詳細は知らなかったが、見たこと・聞いたことがある	13	7.0%
知らない	172	93.0%
合計	185	100.0%



〈20代・30代のみ〉

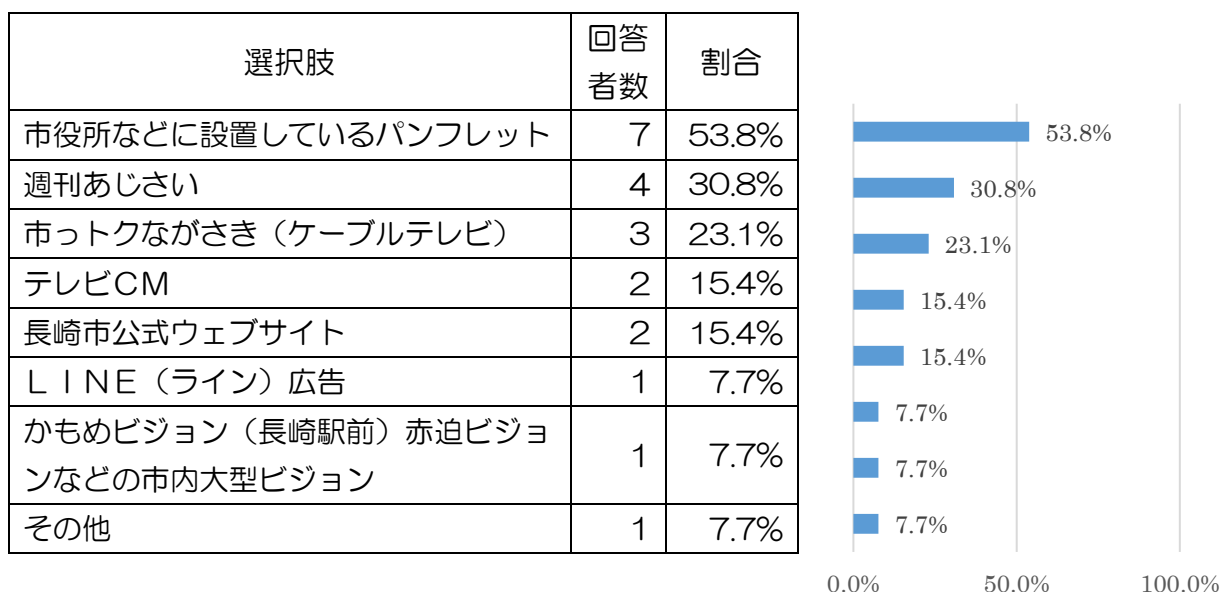
選択肢	回答数	割合
知っている	0	0.0%
詳細は知らなかったが、見たこと・聞いたことがある	4	12.1%
知らない	29	87.9%
合計	33	100.0%



全体の 93.0%の人が「知らなかった」と回答しており、長崎市の少子化対策の取組みを、トレーディングカードを用いて発信する「ながさき未来サポーターズ」について十分に知られていないことがわかりました。

一方で、情報発信の主なターゲットである 20 代・30 代のみを抽出したところ、「知っている」「詳細は知らなかったが、見たこと・聞いたことがある」と回答した人は 12.1%と、全体の 7.0%から上昇しました。しかし、87.9%は「知らなかった」と回答しており、周知が不足していることがわかりました。

問18 問17で「1 知っている」または「2 詳細は知らないが、見たこと・聞いたことがある」と回答した方に質問です。「ながさき未来サポーターズ」をどのようにして知りましたか。（複数回答可）



問19 その他、少子化対策に対するご意見があればご記入ください。【自由記述】

- 婚活イベントより、強制的に 20⑩⑩年度生まれの方～20⑩⑩年生まれの独身の方を集めるイベントに参加の方へクオカード〇〇円分を進呈とかで集合させる催しを行ってほしい。成人式などはみんなで集まるので、その様にして集めて、出会いのきっかけ作りをしてほしい。
- 市営アパートの近代化。
- 魅力ある長崎市を作ってほしいです。若い人たちの交流を交えてあげて。
- 子どもが生まれたらお祝い金を出す（10万、30万、50万など）
- 収入が多ければ、子どもを産もうと思いますが、日々の暮らしに追われれば、子どもを産むのに躊躇すると思います。
- 娘が妊活していましたが、補助金がカットされたりと、負担が増大、結局途中であきらめました。とても可愛そうでした。生まれない事にももっと対策してほしいと思います。
- 長崎は老人の町なので、若者が楽しめる場所を増やすとよいと思う。お店とかバッチングセンターすらなくてびっくり。あと雇用を充実させないと若者は他県に出ていくばかりで人口減少が少子化にもつながると思う。高額医療費の引き上げも本当にやめてほしい。
- 人口流出対策も必要だと思う。

- 趣味に特化した出会いの場の提供は今もしているのでしょうか。
例：サッカー観戦・イベント、アジフライを食べまわるイベント、ウォーキングなど。
- 長崎市の取組をもっとアピールする必要があると思います。私は新地バスターミナルの広告、ビジョンをよく見ます。
- 長崎だけの問題ではなく、東京一極集中が原因となっている。国として分散の舵取りをする必要があると思う。
- 便利過ぎるからパートナーが要らない。子育てを大変、大変と言い過ぎ（大変だけど）お金も確かに掛る。
- 老人に意見を聞くより、若い人がどのような考えを持っているかが先で、その考え方をどれだけ聞いて対策を考える事が有効ではいでしょうか。
- 子どもがいない高齢者家庭にも届く、回覧板みたいなものが欲しい。
- 保育料無料（第二子以降）は、兄弟の年の差があると使いにくいので、第二子以降は、保育園に何人通わせているのかに関係なく無料化して欲しい。
- 体外受精をしてくれる病院の少なさ。何か月も待ってやっと受診出来る状態。クリニックが少なく治療ができない。
- 魅力ある市になれば一番人口増加につながっていくと思います。公共交通機関の充実化など、まずは住民が外出したくなるような環境を整えてほしいです。
- 手取りを増やす、物価高対策ですね。
- 1.人口流出阻止→民間企業の活性化（特に造船業）
2.出産援助→経済的なもの、精神的なもの
3.子育て中のお母さんの仕事をしやすいように→企業がもっと熟考
- せめてものこの世に生を受けた大切な子どもを病気、けが、事故などで死亡させないように見守り、健やかに成長させることを望む。
- 妊娠出産に対して、もう少し手厚い保護があればいいのかなあとと思います。
- 以前テレビで見た記憶がありますが、坂の上の空き家（中心地近くだが階段が多く高齢者が住めなくなり、後継者も不在になった等の理由で）をリフォームして、若い人たちに無理のないレベルの価格で賃貸または販売しているという企画がありました。とてもいい考えだと思うので、行政もこういった取り組みをバックアップすると、また町に賑わいが戻るきっかけになっていくのではないのでしょうか。
- 少子化対策のどれもよく考えられていると思いました。子育てに当たる年齢層の意向（広くアンケート等で）を参考に取り組みを。出来ることから実現してもらいたいです。迅速な行動を。広報は大切です。
- 若い人たちがとどまるような環境作り。

- 第二子以降の保育料無償ではなく、第一子から無償にするくらいしなければ、少子化の勢いは止まらないと思う。
- 長崎は全体的に家賃や土地代が高い。若い人でも負担にならないような住居の金銭面の支援も必要だと思う。
- 即効性の対策はないように思う。お金をばら撒くだけではだめだと思う。子育て世代の意識をかえないと。
- 人口減少に対する危機感が、国、県とも薄い。少子化対策が何より重要だと思う。
- ひとり親家庭のお子さん達が安心して身を寄せる場所の確保。
- 人口流出が問題だと思う。
- 子どもを見守る環境の整備。子ども見守りネットワークで、何かあったときに声をどこにあげるか、わからないことが多いので、見て見ぬふりをしている。もっと声を上げやすくする窓口やサイトを作り、その環境がどういうものなのか、把握しやすくする。
- 世界情勢・国内情勢を見ても、とても未来が明るく感じられる人がどれくらいいるのでしょうか？また女性が子どもを産むことはとてもリスクが高く、命をかけて生み、それからが大変で育てることです。たくさんの人のお金が必要であり、0歳から20歳または25歳位まで教育、健康などとても大変です。覚悟がものすごく必要です。長い間どの年齢、場所などサポートできるのでしょうか？長期計画が見えないと安心して産めるかもしれません。また、結婚はしないが、子どもは欲しいと思っている人もいます。
- 若い人達は職場と自宅の往復が多いと思われる。定例を作り例えば、第2土曜日等と決めて気楽に出入りする場所があれば、そこに若い人達ばかりでなく、お世話をする人、年齢は自由で、コーヒー代は本人持ち。婚活サポーターがあるが、男女を引き合わせるだけでお世話した人に2千円渡すようになっている？結婚しない人たちの出会いがありと耳にしたことがある。
- 長崎市内または、県内で、親子でいっぱい遊べるところがあれば、県外に行かなくていいのにといつも思う。二人の子育て中の娘は佐賀か福岡あたりまで連れて行っています。
- 公立、私立に関わらず、保育所（幼稚園）から大学までのトータルの学費負担の軽減により、経済的な理由による問題が解消され、出生率が上がるのではないかと考えます。
- 結婚して子どもを産みたいと思わない限り、増えないでしょう。先ず結婚したいと思わない世の中になっているのでは？結婚して、安心して生活が出来るには、それなりの給与がないと、暮らせない。正社員登用！派遣社員よりも増やして欲しい。長崎は家賃も高い。親と暮らしている状況では、

中々難しいですね。

- 妊娠、出産しても 仕事が続けられる職場環境支援。
- 根本は出会いと結婚だと思うので、今は出会いの場が少なくなっているらしいので、出会えるイベントをしていただけたら。婚活イベントはハードルが高い人も居ると思うので、同じ趣味を持つ人達が集まるイベント、例えばオタ、ダムオタ、絵画オタ、同じ趣味を持つ人の方が打ち解けやすいと思います。
- 少子化対策に、第二子以降の保育料無償化とございますが、第一子が小学生の場合は何も支援が受けられません。不妊治療などで思うように授かれず、お金と時間がかかってしまったケースをよく耳にします。そこでさらに保育料は全額支払いというのはとても残念に思います。小学生になっても学童代は低学年のうちが高いですし、休みの日にどこかに連れて行くにも小学生は大人料金と同じ金額で取られるものさえあります。地域全体の活性化を目指すなら、そちらも踏まえて、条件なく第二子以降の保育料無償化を望みます。医療費補助についても、長崎市は県内の他の市より遅れている印象です。保育料については短い期間ですしそこまで対象も多くないと思いますので、ご検討をお願いします。
- 若い世代の働く場所確保 企業誘致に積極的に取り組む。
- 収入アップと生活しやすい環境作り、住んでいる地域の安心感も必要。
- 認知度が低い。知らない人が損をしないように、さまざまな方法で伝えるように。
- もっと幅広く経済的支援してほしい
- 私の場合は共働きであったが、子どもたちを近くの実家に預けることができた。そういう環境では無いことが多いと思われるので、共働き家庭での子どもの急な発熱などの際に預けることができる仕組みを構築する。
- お金の貸し付けや、補助金を出すことはしないほうが良い。お金欲しさに子どもを出しに使ってお金を手に入れる人がいるかもしれない。
- 若者達に少子化対策として、市はこんな事等してますよと、アピールが足りないと感じます。
- 子どもが育て安い環境の充実 育児、教育費等の補助の充実。
- もうすでにやられているかと思うが長崎大学、県立大学などで他にないユニーク学部学科を増やして県外からの生徒を増やしていくこともあり、そして当然これらの学生が働ける場を県や市の行政に作ってみることもありだと思うがどうか。そして出会いの場づくりとしては市独自とは言わないがお見合いアプリ的なことも作ってみては？周りでも年頃の独り身が多過ぎ問題が深刻に感じる。とにかくやれる事はいろいろやるべき。
- 生活に余裕がない。家庭を持ってない、勤務状況

- 少子化、結婚しないや婚期の高年齢化などはやっぱり生活する為のお金の問題が1番だと思う。
- 無料で出会える場があるといいですね。
- 結婚して、子育てしやすい地域を作らなければいけない。働く場所の確保やも必要だと思う。
- ワンオペにならないように、男性や職場の意識が変わるといいなと思います。
- 今はセミナーなど、足を運ばないと聞くことができないことはあまり効果的ではなく、知る人が限られてくる。また、テレビを見る世帯も少しずつ減少傾向もあるので、長崎市のXやInstagramなどSNSを活用した少子化対策の取り組みや、子どもを安心して育てられる情報の発信、金銭面で諦める人たちなどを減らす取り組みをもっと強化すべきである。
- 子育てへの手当て給付、市営住宅など幅広い環境作り。

経済的支援の拡充についての意見が最も多く、保育料の完全無償化や不妊治療補助の充実、出産祝い金の支給など、子育ての経済的負担軽減が求められており、併せて、雇用環境の改善と正社員化推進、住宅費支援など、生活基盤の安定を望む声も多いことがわかりました。

また、婚活イベントや趣味を通じた交流など、若者が気軽に参加できる出会いの場の創出に期待する意見もありました。

その他には、公共交通の充実や若者向け娯楽施設の増設、空き家活用によるまちなか再生など、「住みたい」と思わせる地域づくりが重要との意見もありました。

加えて、現在の施策の認知度が低いため、SNS等を通じた積極的な情報発信の強化が求められていることがわかりました。